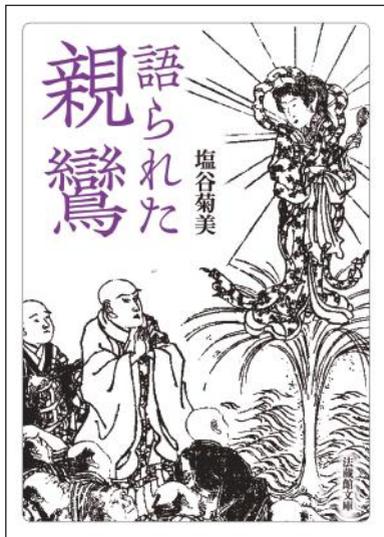


# 語られた親鸞

えん や きく み  
塩谷菊美著

▼文庫判・並製カバ！328頁・定価一、四三〇円

2025年8月刊行



浄土真宗の祖・親鸞の伝記物語は、いかにして誕生し変容してきたのか。鎌倉時代から近世の出版メディア、近代文学との関わりまで時代を追って読み解く。

## 【目次】

はじめに——「お話」としての親鸞伝

### 第一章 物語型の教義書

1 『親鸞聖人御因縁』——「親鸞と玉日の物語」のはじまり／2 和歌の世界からの逸脱——中世文化における和歌の意味／3 聖なる人の誕生——女犯偈と成仏／4 女犯偈に関わる二種の物語——中世における物語の作り方／5 玉女と玉日——巫女的な女性／6 読者に要求される知識——「衆」の結集と親鸞伝／7 真仏因縁——「まことの仏」誕生の物語／8 「真仏因縁」と「伝絵」——二元的思考の導入／9 「親鸞因縁」と「伝絵」——女犯偈の意味の変更に10 源海因縁——鎌倉悟真寺と荒木門徒

### 第二章 「正しい解釈」の追求

1 親鸞像の父・存覚——儀式における物語の活用／2 相互注釈関係——『御伝鈔』注釈史の起点／3 『親鸞聖人御因縁秘伝鈔』——『御伝鈔』で『御因縁』を注釈する／4 根本聖典は『御伝鈔』——彼岸から此岸へ

### 第三章 物語不在の時代

1 本願寺蓮如——本尊は弥陀、祖師は親鸞／2 専修寺真慧——もうひとつの「全国的教団」

### 第四章 真宗流メディアアミックス

1 花開く親鸞伝——注釈書から古浄瑠璃まで／2 「真宗門徒の常識」の成立——知の受け皿の形成／3 古浄瑠璃——門流的親鸞伝からの脱却／4 『御伝鈔』注釈書——隠された意味を求めて／5 『御伝照蒙記』——「正しい解釈」と「正しい史実」／6 親鸞物浄瑠璃上演禁止——本願寺のダブルスタンダード／7 二十四輩伝承——ヒエラルキー構築と親鸞伝説／8 康楽寺の絵解き本——文字と声を架橋するシステム／9 「良観和讃」——似て非なる物語群／10 室町後期から江戸前期の「親鸞と玉日の結婚物語」

### 第五章 「東国の親鸞」の発見

1 戦国末期の高田伝——三人の祖師たち／2 仏光寺本「伝絵」の登

場——聖典に異本があった／3 出版の力——仏光寺本「伝絵」の波紋／4 『高田親鸞聖人正統伝』の刊行——「実伝」の誕生／5 『正統伝』における親鸞と玉日——既刊本から「秘伝」を作る／6 『親鸞聖人正明伝』の刊行——「正統伝」典拠の提出／7 「東国教団」の発見——真宗史における歴史認識問題の発展

### 第六章 読本から近代史学へ

1 赤山明神譚の在地定着——刊本から宝物が生まれる／2 結城称名寺の女身堂——伝説の成長／3 『玉日宮御遺状記』——平仮名絵入りの注釈書／4 『親鸞聖人絵詞伝』——平仮名絵入り親鸞伝の成／5 『親鸞聖人御化導実記』——語りと文字の交錯／6 『親鸞聖人御一代記図絵』——江戸と明治の連続性／7 近代史学の誕生——「人間親鸞」の物語

中近世親鸞伝年表

本書で使用了諸本一覧

参考文献

あとがき——働きながら学ぶということ

文庫版あとがき

### 【著者略歴】

塩谷菊美（えん や きく み）

一九五七年、神奈川県生まれ。一九七九年、早稲田大学第一文学部日本文学科卒業、一九九七年、和光大学文学部文学科専攻科修了。二〇〇三年、早稲田大学にて学位取得博士（文学）。現在、同朋大学仏教文化研究所客員所員。編著：単著に『真宗寺院由緒と親鸞伝』『語られた親鸞』『石山合戦を読み直す』、共編著に、『大系真宗史料 伝記編1 親鸞伝』『大系真宗史料 伝記編2 御伝鈔注釈』『大系真宗史料 伝記編3 近世親鸞伝』ほか。論文多数。

注文書		様冊	
(書店印)		ご担当	
塩谷菊美著		法蔵館	
語られた親鸞		定価 一、四三〇円	
ISBN : 978-4-8318-2705-0 C1195		ご住所	
お名前		お電話	

ご注文はFAX:075-371-0458

法蔵館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入  
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458  
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

真宗・文学